

| | | | | | | | |
|--|---|--------------------|------------------|-----------------|----------------------|----------------|-----------------|
| 地区名 | 昭島市 | | | | | | |
| 研究主題 | 「自然と向き合い、多様な考えを受け入れ、主体的に問題を解決する理科学習」 ～科学的に問題を解決するために必要な資質・能力の育成～ | | | | | | |
| <p>【研究主題設定の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領で示された理科の見方・考え方を児童が働かせて、特に思考力・判断力・表現力等に位置付けられた「問題解決の力」を身に付けていけるように指導を計画していく。そのために児童がどのような見方・考え方を働かせて考え、発言するかを具体的に予想し、それらを基に指導方法を研究していく。また、三つの資質・能力を身に付けれるように次のように目指していきたい授業・児童の姿を設定した。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>① 自然事象と向き合う時間のある授業</td> <td>1 自然事象・現象を楽しめる児童</td> </tr> <tr> <td>② 自分の考えを主張できる授業</td> <td>2 事実に基づいては話し合いができる児童</td> </tr> <tr> <td>③ 問題を解決したくなる授業</td> <td>3 自然に問題解決ができる児童</td> </tr> </table> | | ① 自然事象と向き合う時間のある授業 | 1 自然事象・現象を楽しめる児童 | ② 自分の考えを主張できる授業 | 2 事実に基づいては話し合いができる児童 | ③ 問題を解決したくなる授業 | 3 自然に問題解決ができる児童 |
| ① 自然事象と向き合う時間のある授業 | 1 自然事象・現象を楽しめる児童 | | | | | | |
| ② 自分の考えを主張できる授業 | 2 事実に基づいては話し合いができる児童 | | | | | | |
| ③ 問題を解決したくなる授業 | 3 自然に問題解決ができる児童 | | | | | | |
| <p>【研究の経過と内容】 (研究授業3回)</p> <p>5月8日(水) 研究主題・副題の話し合い年間計画の作成 授業者・分科会の設定</p> <p>6月5日(水) 指導案検討・教材研究・新学習指導要領についての理解</p> <p>7月3日(水) 研究授業 第3学年 「風やゴムで動かそう」 授業者 共成小学校 主任教諭 吉田 学 先生 講師 拝島第一小学校 主任教諭 蒲生 友作 先生</p> <p>9月4日(水) 研究授業 第4学年 「とじこめた空気と水」 授業者 拝島第一小学校 教諭 佐々木 絵理 先生 講師 岐阜聖徳学園大学 教育学部 准教授 高木 正之 先生</p> <p>10月16日(水) 研究授業 第4学年 「ものの温まり方」 授業者 成隣小学校 教諭 柳 飛鳥 先生 講師 八王子市立散田小学校 校長 西尾 克人 先生</p> <p>11月13日(水) 来年度の指導計画作成およびプログラミング研修</p> <p>12月4日(水) 来年度の指導計画作成およびプログラミング研修</p> <p>1月15日(水) 研究のまとめ 実技研修</p> <p>今年度の成果と課題</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人が実験器具にふれ、実験を行うことで各自が問題を解決しようと主体的に問題解決の活動に取り組むことができた。 各班の観察実験の結果をわかりやすく全体で共有できるようにしたことで、児童の多様な考えを比較し、考察しやすくなり、より妥当な考えを導き出せた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が主体となって検証計画を立てられるように、自分の予想や仮説に基づいて、何をしようか(実験器具等)、影響する条件は何か、発問を工夫する。 質的な「見方」を児童が働かせられるように、材質を確認したり、実験に不備があったときの対処方法を確認したりと、事前に実験を綿密に計画する必要がある。 | | | | | | | |